



No.75 2014.09.17
東洋英和女学院
<http://www.toyoeiwa.ac.jp>

季節の小窓
豊かな自然にあふれた大学の
キャンパス。グラウンド脇
の木も黄金色に輝きます。
(大学 横浜キャンパス)



楓

ふうえん

園

TOYO EIWA JOGAKUIN
Public Relations Report

特集

大学・大学院

多文化世界との出会い

学長からのメッセージ／協定校留学帰国生より／
授業外で途上国への研修

- 5 NEWS 中高部／小学部／東洋英和幼稚園／
大学付属かえで幼稚園／同窓会／学院
- 11 史料室レター
- 12 英和の日々
- 13 この人に聞く 市川 紗恵
- 14 聖書の言葉／TOYO Wa-Wa
- 15 英和星空探訪／後援会より／お知らせ



大学キャンパスにて ～留学帰国生と受入留学生～
昨年初めてドイツの協定校から交換留学生を受け入れました

大学・大学院 多文化世界との出会い

すると、一同は聖霊に満たされ、
「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。

使徒言行録 二章四節

大学では、学部を問わず多くの学生が、
毎年英和のプログラムで留学や海外研修に参加しています。
今号の特集では、多文化世界に出会い、受け入れ、
学びを深める、学生たちの今をお伝えします。

学長からのメッセージ

「国際化」と「グローバル化」のはざま



大学学長 池田 明史

陳腐な表現ですが、現代とは「変化の時代」にほかなりません。刻々と変化するその現代に生きる私どもにとつて、もはや日本から出ようが出来ないが、いわゆるグローバル化の影響を受けずに過ごすことは不可能になっています。もち

ろん、これまでも情報・知識・経験を海外から輸入し、これに日本的な文化や伝統を加味したり、固有の工夫で補修したりしたものを輸出していたという意味では、私たちは常に国際化の文脈の中に置かれてきたわけです。大学教育

を含め、日本の教育それ自体が、良くも悪しくも「欧米から輸入した学問」を「輸入したシステム」によって次世代に伝達していくという構造を持っていました。
しかし、グローバル化という現象は、これまでの平板な輸出・輸入という双方向性の国際化とはまったく次元が異なります。私どもの慣れ親しんだ「国際化」という概念の上に立つ教育の内容や展開の仕方は、この新たなグローバル化の波によって機能不全を起こしつつあるとさえ言えるのかも知れません。たとえば、かつては「世界に冠たる」と形容された著名な日本企業の多くが、なぜ国際的な競争力を失いつつあるのかを考え

てみればよくわかります。それらの企業は、世界中で発明されたモノや技術やサービスを日本人的な感覚・感性で改良し、改善し、高品質・低価格を目標に、国際的な市場に送り出すことで競争力を維持してきました。それを支えてきた日本の教育とは、要するに、単一のシステムによって大量に生み出される均質の人々が、一元的な知識を習得するということを主たる内容としてきたわけです。
これに対して、ここで言うところの「グローバル化」の時代とは、もはやかつての単一・均質・一元的という特性が、メリットではなくデメリットとして作用する時代にほかなりません。単純な双方向

性ではなく、複雑に錯綜した多方向性でも形容するしかない世の中において、一人ひとりの人間が、多様で異質で多元的なさまざまな要素を受け入れなければ暮らしていけない時代だということなのです。ひとりの個人がひとつの視点ではなく、多様な視点で世の中を見つめることができなければ、これからの世の中がどう変わっていくのかという見通しを持つことができなくなっているのです。グローバル化を見据えた教育とは、詰まるところそのような複眼的視座を自分の中に構築できる人間を育成することなのだと考えているところです。

協定校留学帰国生より インタビュー ～トルコのイエディテペ大学 に留学して～

人間科学部人間科学科4年
増田 理加

■プロフィール

本学の協定校留学プログラムを利用し、2012年9月から翌年6月まで、派遣交換留学生としてトルコのイエディテペ大学に留学。人間科学部教授のおふたり(久保田まり先生・坪内千明先生)が留学体験についてインタビュー。増田さんはこの経験を生かしグローバル企業である分析計測機器メーカーの株式会社堀場製作所に就職が内々定まっています。

久保田 まずは、留学を決めたきっかけは何ですか？
増田 高校二年生の時に修学旅行でハワイに行き、ハワイの大学で講義を受けるチャンスがあり、異文化に感動して、大学生になったら、一定期間、留学してみたいなと思いました。
久保田 なぜ本学に数ある協定校の中で、トルコを留学先に選んだのでしょうか？
増田 まず、ヨーロッパとアジアを結んでいるトルコの位置に興味がありましたし、イスラム教の信者

が多くイスラム文化に自分を浸してみたいな、と思いました。経済成長もトルコはとも著しい国で、そこも魅力的でした。中東全体がオイルマネーによって活気づいている、というのをニュースでみて、今後はどんどん経済の流れが東に動いていくのではないかなと。
久保田 留学のために具体的に準備したことはありますか？
増田 留学の申請には英和での成績(GPA)や英語力(TOEFLスコア)などの条件があり、まずはそれをクリアしなければならぬので、大学一年の時からTOEFLの勉強をしました。文書やリーディングの対策本を数多く買って、大学の空き時間に図書館で勉強し、家に帰ったらなるべく英語を流して聴いていました。また、英語の授業が週三回あったので、すぐく役立ちました。最終的には基準点を越えて、申し込むことができました。
坪内 留学先では主に何を勉強しましたか？
増田 社会学部に入ったので基本的には社会学の科目を、例えば青年社会学、家族社会学、ジェンダー社会学等を履修しました。その他には心理学、哲学、トルコ語等も学びました。トルコ人の学生も留

学生も母国語が英語という人がほとんどいないので、授業では、先生もわかりやすい英語で話してくださいました。ただ、教材は難しく、辞書片手にしないとできなくて。
久保田 増田さんの周りにいた留学生たちの様子を教えてください。
増田 留学生はとも多くて三〇〇人程度いたのですが、七割八割がドイツとオランダからきて、しかも、皆、英語がべらべらでした。とにかく、皆、よく勉強していましたが、他の国の人と話すことに慣れていく人が多くて、ヨーロッパ諸国は大陸でつながっているのでも、異文化交流にも抵抗がないのかな、と感じました。また、アジア人はほんの数人でした。
久保田 そのような環境下で、すぐに大学生活には馴染めたのですか？
増田 よく馴染めました。と言いますのは、皆が私を受け入れてくれたからです。トルコの人たちも、留学生の仲間も、例えば「今日ここ行くけど一緒に行かない？」と誘ってくれて、フレンドリーで。また、宗教文化というか、「旅人に歓待」というイスラムの教えがあつて、本当に優しくしてもらいました。私、旅人ではないのですけれど…。
坪内 留学体験を通して、何かご



International Day (中央が本人)

自身が変化したことは？
増田 他者の意見を受け入れるようにはなったのかなとは思いますが、自分が納得いかないようなことも、一回受けとめて、かみ砕いてから、でもさ…というふうにも。また、就職活動に対する意欲が、とても強くなりました。
久保田・坪内 最後に、後輩や高校生の皆様に、一言アドバイスをお願いします。
増田 留学に限らず、やりたいと思つたことはどんどん挑戦していつてほしいと思います。そして、怖れずにどんどん失敗してほしいとも。たとえ失敗しても、そこから反省し、次はこうしよう、自分の成長につながっていったらいい、と思います。もちろん、私もこれからはどんどん挑戦していきたいなと思っています。

東洋英和女学院大学の留学・海外研修・国際交流①

全学科対象の長期留学プログラム

出願にはTOEFL®等スコアの提出が必要。卒業要件単位が満たされれば1年間留学した場合でも4年間での卒業が可能。協定校・推薦校留学には選考により留学奨励奨学金が支給されます。

●協定校留学

学内選考を経て、本学が交換留学協定を結んだ大学へ留学。留学期間中は、本学授業料等納付金を納めることにより、留学先授業料が免除されます。

主な協定校: サンディエゴ州立大学(アメリカ)、ニューカッスル大学(オーストラリア)、サレント大学(イタリア)、ケルン・ビジネス・スクール(ドイツ)、梨花女子大学(韓国)、チュロンコン大学(タイ)、イエディテペ大学(トルコ)、国立政治大学(台湾)

●推薦校留学

学内選考を経て、本学によって選定された学校のプログラムに参加。出願にはTOEFL®等スコアの提出が必要。留学期間中は本学・留学先それぞれに授業料等納付金を納付しますが、本学納付金は減額措置が適用されます。

主な派遣先: オレゴン大学(アメリカ)、センチナリー・カレッジ(アメリカ)、メルボルン・プログラム(オーストラリア)

●認定校留学

協定校や推薦校以外の大学へ出願し入学許可を得た場合、本学より適当と認められれば、正規の留学扱いとなります。

協定校留学帰国生より 韓国人の私が、 母国韓国へ留学して思ったこと

国際社会学部国際社会学科4年
趙ハンナ

■プロフィール

韓国からの私費留学生として2011年4月、国際社会学部国際社会学科に入学。本学の協定校留学プログラムを利用し、2013年3月から12月まで、本学からの派遣交換留学生として母国の梨花女子大へ留学しました。

韓国の首都ソウルでの生活は思っていた以上に忙しいものでした。一週間に二回ある講義は一回復習を怠るとついてゆけません。授業に慣れたと思ったら中間テスト、これが終わって一息しようとしたら期末テスト、これでようやく休みが来るという具合でした。休みの間には全国を五日間かけて電車で回り、アルバイトもしました。実家にも帰り、初めての家族旅行もできました。

テスト期間中の梨花女子大では、普段とはガラリと変わった

風景が見られます。図書館は二十四時間開館し、学生たちの中にはジャージ姿で自習室での生活となる者もあります。いつもは校門で彼女を待っている男性も少なくなく、キャンパスは暗い空気に覆われます。一年間の留学で四回もこういった期間を過ごした私は、日本で受けたものとはまた違うカルチャーショックを経験しました。

まず、両国の就職活動を念頭において学生生活を考えてみます。大学という場所は自分の勉強したい分野をさらに深めるところ、あるいは新しい分野を追求し、知らなかった自分を導き出す場所だと思っていました。ところが、韓国の学生たちを間近にして、少し変質した意味での大学生活を送っているかのように思えたのです。近頃、韓国の会社はすでにあらゆる分野で特化され、カンペキな人材像を求めようとしています。このため、新卒者が入社してからまかされる仕事は限られてくるようです。一方、日本では三年生の十二月から就職活動を進めますが、人間性と職務への熱意などを重視する会社の要求に備えて面接の準備などに励んでいます。資格や成績に執着する韓国の学生とはまったく様子も違います。

学生たちのアルバイトの目的も韓国と日本では少し異なります。両国で私が所属した学校に限って考えますと、韓国は引き上げられた学費や高騰する物価のせいで増した親の負担を少しでも減らすためのお小遣い稼ぎですが、日本は洋服の購入や趣味、旅行のためなどといった理由が多かったようです。本来、輝くはずの二〇代がむなしく過ぎてゆくのはとても残念です。このように厳しい状況の中でも、学生たちの様子には良い変化も見られました。町のあちこちにあるカフェでは、そこに集まって討論をしたり、何かのプロジェクトの会議をしている大学生の集団を頻繁に見かけました。最近はお店の中にスタディスペースも別に用意されているぐらいです。また、学生が参加できる分野も広くなり、社会の動きに合わせてお店も学生も変わりつつあるようです。想像していた以上に厳しい生活を送っている韓国の学生の姿に驚きましたが、そのなかでも彼ら彼女たちが楽しく過ごしていることに感動しました。

多くのことを学べた一年で、自分を振り返ることもでき、このような機会を与えてくれた東洋英和に感謝しています。将来、英和で、

または、英和のおかげで得られたものを土台にして社会に貢献できる人になれるよう、一生懸命努力します。



大講堂前にて



モダンな造りのキャンパス



正門付近から大講堂をのぞむ

東洋英和女学院大学の留学・海外研修・国際交流②

全学科対象の短期研修プログラム

●海外英語実習A・B

学内選考を経て、カナダおよびアメリカでの短期研修に参加。出願にはTOEFL®等スコアの提出が必要なものもあります。プログラムを修了すると所定の単位が認定されます。

主な実習先: ヴィクトリア大学ELC (カナダ/夏季・4週間)、マウントアリソン大学 (カナダ/春季・6週間)、VIA*スタンフォード・プログラム (アメリカ/夏季・4週間/日程の関係上休止の場合あり)

*VIA: Volunteers in Asia

国際コミュニケーション学科の語学留学プログラム

●海外実地研修プログラム(語学留学)

一定の条件を満たせば希望者は原則全員留学が可能。留学時期は2年次後期で、大学付属(または私立)の語学学校で学びながら、その国の社会や文化を実地で体感。現地で履修した科目は、所定の手続きと審査により本学の単位として認定されます。

授業外で途上国への研修 ～高・大・大学院の連携事業を見据えて～

大学院国際協力研究科長
国際社会学部教授

滝澤 三郎

にゼミ仲間と一緒に訪問しておくことは、彼女たちの今後の人生にとって貴重な経験となる、というのが研修旅行の狙いです。

二〇一一年には、タイ西部国境地帯のミャンマー難民キャンプを東京大学の大学院生らと一緒に訪れました。故郷と祖国を失い、自由がないキャンプで二〇年も暮らす一〇万人以上の難民。将来が全く見えない不安の中でも「いつかミャンマーに帰って国の発展に尽くしたい」と語る同年代の若者たちの姿を見て、振り返りミーティングでは涙を浮かべながら自らの生き方を反省する英和生もいました。

二〇一二年には、本学大学院の院生も加わりインドを訪問し、ニューデリーのスラムやIT企業、東北部農村を訪問し、アジアの大國として発展しつつあるインドの「光と影」を体験しました。インド中央政府の青年スポーツ省の女性次官の英語の歓迎挨拶に緊張する学生がいたり、ホームレス老人の増加といった社会問題の解決を目指す社会福祉学科で学ぶインド人大学生に、日本人学生の社会問題への意識の低さを指摘され下を向いてしまう学生がいたり、刺激の多い旅となりました。

二〇一三年夏には、一一年始め

の民政移管以来の急激な民主化・自由化で世界を驚かすミャンマーのヤンゴン、ネピドー、バガン、マンダレーの四都市を訪れました。学生たちは、国の形を一举に変えようとする国家計画・経済開発省の女性副大臣の熱い思いに打たれ、他方で貧困のため学校にも行けない多くの孤児たちの姿に衝撃を受けました。訪問先の村で気分が悪くなった学生を村人たちが総出で介抱してくれたとき、日本ではもう見られなくなった「助け合い」の気持ち、「奉仕」の精神が庶民の生活の中に息づいていることに、学生は驚きを隠せませんでした。ミャンマーはとても魅力的な

国であり、二〇一四年の夏には東京大学の学部生七名と一緒に再びミャンマーを訪れます。来年以降も定点観測的に毎年を計画、東洋英和の高等部の生徒が参加する可能性もあり、そうなれば高・大・大学院連携の事業となります。研修参加には二〇万円前後の費用がかかりますが、現在のところ大学の正式なプログラムでないため単位にもなりません。にもかかわらず毎年一〇人以上の学生が参加しているのは、その価値を学生は直感的に感じているからでしょう。実際、研修旅行で学生



2012年インド研修旅行(ニューデリーのスラムの学校で)

は大きく伸び、今までの参加者には開発支援NGO活動などに積極的に関わる者が何人かいます。彼女たちはこの先ずっと訪問した国の動向に関心を持ち続けてゆき、彼女たちの世界は知的にも実践的にもぐっと広がっていきます。「就活」の面接などでユニークな話題作りができる、といった「実利」を超えて、今の世界における自分の特権的な立ち位置を具体的に理解し、「恵まれない人々」の生き方から学び、「奉仕」の気持ちを自然に高めていくことは、東洋英和の建学の精神に繋がります。途上国への研修旅行は、単に今日の国際社会の理解を深めるだけでなく、彼女たちが今後どう生きていくべきかについてのヒントを与える機会になっています。



2013年ミャンマー研修旅行(ヤンゴンのシュエダコン・パゴダ寺院で)

東洋英和女学院大学の留学・海外研修・国際交流③

人間科学部の海外プログラム

- 人間科学部の「歴史文化研修B」
デンマークのInternational People's Collegeにて授業を受け、高齢者施設や児童・幼児施設の見学等を行います。(夏季)
- 保育子ども学科の「フィールド・ワークA」
カナダや北欧の保育・教育・福祉を日本で事前学習し、現地の関連施設を訪問します。(夏季または春季)

留学生の受入れ

4年間英和で学ぶ私費外国人留学生、および、1学期または2学期間英和で学ぶ交換留学生を受け入れています。2014年度後期の留学生は、私費留学生3名(韓国、台湾)、交換留学生6名(タイ、イタリア、ドイツ)です。国際交流部の部員(Buddy)が受入留学生を生活、勉強、その他あらゆる面からサポートしています。

ケイト・マクドナルド・バトラーさん来校

ケイト・マクドナルド・バトラー



五月二〇日、『赤毛のアン』の著者L・M・モンゴメリのお孫さんのケイト・マクドナルド・バトラーさんがご子息とともに来校され、礼拝で貴重なお話を伺いすることができました。

今日はお招きいただき、祖母のL・M・モンゴメリについてお話しできることを感謝します。この学校がカナダと深い結びつきがあり、カナダ人宣教師マーサ・カートメルによって一八八四年に創立されたこと、また美しいプリンス・エドワード島に一週間滞在した後で、ニューブランズウィック州のマウント・アリソン大学で研修する語学研修をおこなっていることを知って嬉しく思っております。

今日皆さんの学校を訪れ、最も有名な卒業生の一人である一九一三年の卒業生、村岡花子さんに称賛の意を表すことができるのは大変光栄なことです。ご存じのように、村岡さんは著名な作家であり、一九五二年に翻訳した『赤毛のアン』によって翻訳家としても名を知られるようになりました。村岡花子さんの孫にあたる三木美枝さんや村岡恵理さんの実証的で丁寧な著作についても感謝の意を表したいと思えます。このお二人のお母様のみどりさん、恵理さん、そして美枝さんの娘の奏さ

んも、祖母の花子さんと同じくこの美しい学校の卒業生です。

友達や家族からは「モード」と呼ばれていたL・M・モンゴメリは、私が生まれる前に亡くなっていましたが、私の父のスチュアートが、有名人の母親に育てられた子ども時代の話をよく聞かせてくれたものでしたから、私はずっと彼女と共に生きてきました。

私はトロントに居を構えるスチュアートの一人娘だったので、一家の主寝室の大きな洋服ダンスの中に慎重にもぐりこんで、たくさんの手書きの日記類やきちんと重ねて整理された白黒写真の入った箱が積み重なっている棚を見た思い出があります。そういう物が大切なものだという事は解っていましたが、祖母の手書きの文字を解読することはできず、ただ祖母がこれらの古い日記に打ち明けていた個人的な



英語で歓迎のスピーチをしました

話を想像するだけでした。一〇代のころ、兄たちと私は帰宅すると、父が食卓に祖母の直筆の日記を一冊ないし数冊置いてその内容についている吟味したり、見出しだけをざっと読んでみるのを見かけたものでした。時には父が私たちに読んで聞かせてくれることもあり、私たちは父の声からこれらの日記が父にとってどんなに大切なものであるかが分かりました。そして最大級の敬意をもって取り扱わなくてはならないと父が思っていることも分かりました。祖母の日記の全部と写真のコレクションの大部分は、現在カナダのゲルフ大学の公文書保管所にあり、日記は七巻に編集されて一九八五年に出版されました。

私は、日本の熱烈なファンから祖母のモードに何年も前に贈られた着物を箆笥から出して、幼稚園の「宝物披露」クラスに持って行った時のことを覚えています。祖母に贈られたなんとも異国情緒あふれる衣服は、みんなと見て分かち合うに値すると思ったのですが、その贈り物にまつわる話を両親に尋ねようとは全く思いつきませんでした。しかし、そんな昔に祖母にその着物を贈ってくださった日本にいる方と祖母は友達になったのだろうか、ずっと不思議に思っていたのです。私はまたその日の学校の帰りに着物の帯をなくしてしまい、そのことでは長い間と

でも落ち込みました。子どもの頃、祖母の華奢な結婚式の靴を履いてみた、大きな洋服ダンスの中の細身のウェディングドレスを眺めては、どんなに小柄な大人でもこのドレスは着られないのではないかしらと思ったことも思い出します。これらの品は、今では、プリンス・エドワード島の博物館に、展示されています。帯はありませんが、着物も展示されています。

私は一〇歳の夏に初めてプリンス・エドワード島を訪れました。父と私は、プリンス・エドワード島に渡るフェリーが、ルーシー・モード・モンゴメリ号と命名される式典に招かれたのでした。オタワから父やプリンス・エドワード島の新しい州知事さんと公用機に乗って、多くのメディアに取材され、群衆の喝采を浴びながら新しいフェリーの進水式で船体にシャンパンの瓶をぶつけて割るのはワクワクするけれど極度に緊張する時でもありません。その日の晩に、ミュージカル『赤毛のアン』の芝居を見たあと楽屋に行つて、一九六七年にアン・シャリーを演じた素晴らしい女優のグレイシー・フィンレイに紹介されたのは胸躍る素晴らしい出来事でした。このミュージカルは公式に世界で一番長いロングラン記録を出していて、初演以来四九年目を迎える現在でも観客を魅了し続けています。私は祖母の偉業を誇りに思いつつながら



とても興味深いお話でした

大人になりました。そして祖母から素晴らしい遺品を受け継いだことを名誉なことだと思っています。『赤毛のアン』は一〇六年間にわたって綿々と出版され続けています。世界中で三五言語に翻訳されてきました。最近ではヒンズー語に訳されました。ミュージカルや舞台劇やテレビ映画になったり、シリーズもので放送されたり、特集になったりビデオ映画になったりしました。学者たちは『赤毛のアン』について、またL・M・モンゴメリの他の本や日記について批評を書きました。世界はアンやL・M・モンゴメリに魅了され続け、私たち家族は新しい映画シリーズの脚色を最近正式に許可しましたので、おそらく二、三年もすれば新シリーズが放映されるようになるでしょう。

『赤毛のアン』の筋立てには、底流に真の人間ドラマがあって、不安定なアンの運命は一体どうなってしまうのだ

ろうと思わせ、そこが読者の心をとらえるのだと思います。マリラやマッシュウがアンを気に入らず送り返していたらどうなっていたでしょう？ 彼女はどこに行つたでしょう？ このか弱く夢見がちな子どもは一体どうなつたでしょう？ この小説の魅力は周囲の人々から認められることも尊重されることもなかった登場人物が成長していく物語の中にあります。アンには社会の中に居場所を与えてくれる両親がいまません、さらに都合の悪いことには、この子は女の子なのです。そしてきちんとつけられていず、癩癩持ちな性質を意味するのがアンの赤毛です。人はみんなどこかに自分の居場所を持つていたいと思っています。——どんな人も心から居場所を求めている——大事にされたいと思つているので、アンには親近感を覚えるのです。

いつの世にも変わらない、このアンの人物設定が、私たちの心の琴線にふれるのです。もちろんアンは、外面的には成長します。寂しい孤児から愛される者へと変わり、彼女のぎこちなさはやわらいで、赤毛も彼女にとつてそう厄介なものではなくなつていきます。でも、私たちがページ目で出会うアンの人物設定、人柄はこの本の終わるまで、そしてこれに続くシリーズの他の本の中でも変わることはありません。マッシュウの馬車に座つて、アンは

寛大な心でできる限り正直であろうとし、愛したい、愛されたい、徹頭徹尾自分に正直でありたいと願つていきます。こんなアンの日々の生活の中で起こるちよつとした失敗に魅了されないうようにするのは不可能です。

『赤毛のアン』の私たちを長く惹きつけてやまない魅力は何かという問題を解く二つの鍵が、この小説の最初の部分と最後に近い部分にあると思います。三章で、マリラは、男の子を頼んでおいたのに女の子が送られてきたことに怒り、「あの子がわたしらに何の役に立つというんです？」とマッシュウに尋ねます。マッシュウは「わたしのほうであの子になにか役に立つかもしれない」と答えます。マッシュウの優しい気持ちがこの小説全体を包み込んでいます。そして、最終章近くのもつとも心がなごむ場面は、冷静で、厳しく、融通のきかない

マリラがアンのことを認めて「こういう時でなければ、素直に思っていることを言うなんて、わたしにはなかなかできないからね。あなたのことは、血と肉をかけた実の子のようにいとおしく思つているよ。あんたが『グリーン・ゲイブルズ』に来てからというものは、あんたはわたしの歓びであり心の慰めなんだよ」と言う場面です。読者が『赤毛のアン』を愛するのは、私たちがマリラが学んだ教訓を共に学ぶからです。すなわち心を開くことこそが、人が真の意味で生きるといふことにつながるのだと。

あなたが『赤毛のアン』を読み返すにせよ、初めて読むにせよ、世界で一番愛されている登場人物の物語の世界にようこそいらつしやいましたと、私は申し上げます。そして、本日は私を東洋英和女学院にお招きくださつて、ありがとうございます。(抜粋)

カナダ大使館を訪問

中3-1 加藤いずみ

5月21日、今年度カナダ語学研修に参加する生徒がカナダ大使館を訪問し、ケイトさんの『赤毛のアン』の英語の読み聞かせ会に参加しました。

私たちはカナダ大使館に訪問して、ケイトさんに英語で『赤毛のアン』を読み聞かせて頂くことができました。そのあと皆で輪になってお話することができ、私が「プリンス・エドワード島でお勧めの場所はどこですか？」と質問すると、「もちろんグリーン・ゲイブルズよ」と答えてくださいました。ケイトさんはとても温かいお人柄で笑顔が素敵な女性でした。お会いすることができ、本当に嬉しかったです。このような機会を与えられ、とても感謝しています。



ケイトさんを囲んで楽しいひと時を過ごしました

80人の新しい英和生を迎えて

四月一日、木曜日、天候にも恵まれ、小学部では八〇人の新入生を迎えることができました。

小学部の入学式では、講堂で、八〇人の一年生を在校生による花のアーチで迎えることが恒例となっています。今年も校門のソメイヨシノに見守られ、例年と同じように八〇人のかわいい新入生を迎えました。第一部は礼拝形式で行われ、第二部は「かんげいかい」という形式で行われます。「かんげいかい」の中では一年生が順番に壇上上がり、一人ひとりの名前が呼ばれ、紹介されていきます。名前を呼ばれる新入生は、



花のアーチでお迎えました



一人ひとりの名前を呼び、歓迎しました

きどきしていたことでしょう。それでもみんな、名前を呼ばれると「はい」としっかりしたお返事ができ、来場の皆様からたくさん拍手をいただきました。入学式が終わり、今度は場所を食堂に移し、「お茶の会」のひと時をもちました。こちらでも一人ひとりとご家族の紹介が行われましたが、おいしいものをいただいた直後ということもあり、少しリラックスモードに。事務や業務の方のみならず給食の方もいっしょに、教職員全員で八〇人の新しい英和生とご家族を歓迎し、改めて入学の喜びをお祝いしました。

その後は一組四〇人、二組四〇人、そ

れぞれクラスにもどり、担任の先生と四つの「お約束」をし、解散することになりました。今年の四つの「お約束」は、

- ①心をこめて礼拝やお祈りをしましょう
- ②たくさんのお友達と仲良くしましょう
- ③先生やお友達の話をしっかりと聞きましょう
- ④元気に挨拶をしましょう

の四つでした。これを一年生の子供たちにわかりやすいように四つの「お」とし、合言葉のようにしてみんなでがんばることにしました。おいのりの「お」、おともだちの「お」、おはなしの「お」、最後のご挨拶は少し工夫しておはようの「お」、としました。

小学部では建学の精神の敬神奉仕を、小学生の子どもたちにわかりやすいように「神さまのために、人のために」という形で伝えるようにしていますが、四つの「お」を通して子どもたちと一緒に敬神奉仕を目指してがんばっていきましょうと気持ち新たに感じました。四つの「お」が子どもたちの心に響いたのは何よりでした。どの新入生の表情からも「今日から小学生、楽しみなな。がんばるぞ」という思いが感じられ、私たち教職員一同としても新しい八〇人の仲間たちとの関わりを楽しみに感じた一日となりました。

保護者の感想より(抜粋)

在校生によるお花のアーチをくぐって新入生が入場し、礼拝によって始まった入学式は、先生方や生徒の皆様の愛に溢れ、山本部長先生の「今から6年前に小さな女の子が誕生しました」という始まりのお話もいただき、思わず目頭が熱くなりました。娘も昨日までは新生活に不安そうな一面もありましたが、友達を少しずつ増やして、讃美歌もたくさん覚えたいと、目を輝かせております。娘の肉親として、また79名の叔父叔母として、みんなの成長を想像し、そのスタートとして相応しい、とても素敵なお式でした。これから、どうぞ宜しくお願いいたします。



お茶の会を終えて教室に帰る子どもたち

母の会主催「いちょうの木献金セール」



たくさんのお客様がいらした「いちょうの木献金セール」

真夏のように気温が上がった五月三〇日(金)、幼稚園では母の会主催の「いちょうの木献金セール」が行われました。母の会の役員やセール委員の方々が中心になり、お母さま方が一丸となって準備をすすめてきました。聖書カバーや英和の制服を着た熊のぬいぐるみなどの手作り品、食器や衣類などさまざまな献品が一階ホールに並べられ、九時の開始時間から一時三〇分の終了時間までの二時間半の間に三〇〇名近いお客さまが幼稚園にいらしてくださいました。園児のご家族やご親族、卒園生のお母さま、学院各部のお母さまや卒業生の方々、教職員など、さま

ざまな方がおみえになります。お客さま方は買いものをなさりながら、「お久しぶり」「お元気でいらして？」と、その様相はさながら同窓会のようにもあります。

東洋英和幼稚園のセールを特徴づけているのは、「献金セール」とあるように、セールの売り上げを献金として学院内外にお捧げすることです。東日本大震災で被災された方々や教育を受ける機会に乏しいバングラデシュの子どもたちのためなど、困難の中にある方々を覚えて、お母さま方はお仕事を進めます。子育てで自分の時間さえない日常であると思いますが、他者のためにと心をこめて笑顔でお仕事にあたるお母さま方を、わたしたち幼稚園の教職員は誇りに思っています。他者のために立ち働くお母さまの姿から子どもたちには大切な何かを学んでいることでしょう。

成長を止めることなく大きく育ってきた幼稚園の庭のいちょうの木のように、この「いちょうの木献金セール」が、これからもさらに時代にあつたものとして成長していくことができるようにと願っています。

大学付属 かえで幼稚園

時間をかけて創り出すたのしさ



それぞれの場で遊びが続いています

子どもたちは日々、自分で遊びを選び、遊びを創り出し、その中に喜びや希望を見出しています。私たち保育者は、子どもたちの姿をよく見て、思いを共感しながら遊びを支えます。このページには引き続き、子どもの遊びのひとつまをお伝えします。

ある日、年長組のAちゃん、Bちゃんが、空き箱と空き箱をつなぎ、電車を作りました。二人は、でき上がった電車を紐をつけ、それを引っ張りながら廊下を行ったり来たりしていました。保育者は、模造紙を数枚用意し、「ここに線路を描くのはどうかしら？」と提案しました。賛同した二人は早速クレ

ヨンを持ってきて、のびやかに線路や道路を描いていきます。そこへもう一人子どもがやってきて、なかに加わり、三人になりました。踏切、川、畑など、さまざまなものが描き足されていきました。保育者が、「ここには緑がないから、木を生やそうかしら」と言って、木を数本描き、切り取り、模造紙に立てました。三人は、「いいねえ」と言い、自分たちも思い思いに、家やお店、山などを加えていきます。また、Aちゃんが作った少し高いビルを倒れないように立てるにはどうしたらよいかを、なかと保育者と共に考え合うこともしました。

三人の街づくりは、翌日も、そのまた翌日も続きました。線路を走らせる電車にも、目を重ねるごとに細かい工夫がこらされるようになりました。

ひとつのことにたつぷりと時間をかけられること、想像し、形にしていくこと、「昨日の続きをしよう」と楽しみが続くこと、なにかと心を合わせられること……子どもたちの遊びの中に、人生の土台となる豊かな体験があることを嬉しく思います。

同窓会創立120年の時を経て

東洋英和の創立後一〇年目に同窓会は発足し、当時一〇〇名であった卒業生は学院の発展とともに卒業時に所属する会は六会となり総数は三万五千人を超えました。学院創立一三〇周年の今年、同窓会も新体制でスタートします。

東京が梅雨入りをして最初の土曜日は前日からの雨模様。午前中は卒業時に所属する各部同窓会が六本木校地の講堂、会議室でそれぞれの総会を開きます。

旧短大英文科かえで会は今秋の会報発行を最終号とし、会独自の活動を休止する事が今総会で多数の出席を得て承認されました。同様に、新入会員のいない旧短期大学の保育科、国際教養科も会計、役員選出など厳しい状況を抱えつつも現状維持に努力されています。毎年新会員のいる高等部東光会と大学楓美会が人数でも会計面でも全体を大きく支えてくださっています。男性会員もいらつしやる大学院同窓会も加わり学院同窓会



「敬神奉仕」の標語のもと520余名が集いました

は時を経て変わらぬ「敬神奉仕」の建学の精神により相互の豊かな交わりと学院への支援を目指し協力しています。午後には始まりを待ちきれない入場者に開場を早め学院同窓会の総会が開催されました。

開会礼拝では村岡花子訳詞讚美歌七番を讚美し、深町正信院長先生に「わたしのもとに來なさい」とのメッセージをいただきました。議事進行は会場一杯の五〇〇名を超える会員が山北千世新会長へのバトンタッチを見守り、学院創立一三〇周年を記念し寄付一三〇万円を贈呈いたしました。

続いで講演会は、お待ちかねの「花子とアン」原作者の村岡恵理さんが、お祖母さまにあたる同窓会の大先輩村岡花子さんと東洋英和のテーマでテレビの反響などユーモアを交えて楽しくお話しくださいました。恵理さんを囲む輪はお茶の会にも続いていました。



村岡恵理さんの素敵な語り口に一同魅了されました

同窓会会長就任にあたって



山北 千世

一二〇年前、卒業生が一〇〇人になったのを良い機会と捉え当時の校長ミセス・ラージが設置を進言してくださり発足した同窓会。ミセス・ラージは愛する夫を強盗に被害され、ご自身も大怪我を負われましたが、悲しみを乗り越えいよいよ強く東洋英和の教育に当たられました。それから一二〇年、今は三万五千人を超える同窓生が与えられ、東洋英和女学院も創立一三〇周年を迎えました。この伝統を受け継ぎなさいと託され、身の引き締まる想いです。

伝統は「手渡すこと」が語源だそうです。そして伝統は前進しようとする時、力を発揮すると聞きました。バックミラーのような役割を果たしてくれるのでしょうか。過去から現在へ受け継ぎ、現在から将来へしっかりと手渡さなければなりません。欠けの多い小さな器ですが、皆様のお支えと神様のお力に助けていただき歩んで参りたいと存じます。

同窓会会長退任にあたって



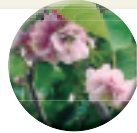
松本 幸恵

同窓会が創立されて一二〇年になる今年、その時々と与えられた人々の知恵と祈りによって大切に守られ受け継がれてきた同窓会という宝物を次の時代に引き継ぐバトンを山北千世新会長の手にお渡しすることができ感謝と安堵感で一杯です。

四年前、経験未熟な者が大役を仰せつかりおぼつかないスタートでしたが、経験豊かな周囲の皆様のお支え、励ましをいただき、同窓生が共通にもつ温かな人を思いやる「敬神奉仕」の空気のおかげで幸せな時を過ごす事ができました。

それぞれ特色を持った「木」である六つの各部同窓会が思いを一つにして学院同窓会という「森」となる事でより豊かで美しい輝きを見せてくれる事でしょう。

常にご理解とご協力をお示しく下さいました学院に心から感謝し、同窓会の活動を通して母校を誇りとする卒業生が一人でも増えますように願っています。



カナダでの植樹式に参加しました 「桜プロジェクト」—ありがとうを桜に託して—

二〇一〇年に刊行された『カナダ婦人宣教師物語』に感動した卒業生・学院評議員の松岡裕子氏の強い思いが発端となって、同窓生を中心として「桜プロジェクト」が二〇一一年にスタートしました。この活動は、ミス・カートメル以来一四〇名を超える多くの婦人宣教師の信仰とお働きが今日の東洋英和女学院の礎となったことを覚え、ミス・カートメルを遺わしてくださったセンチナリー教会のあるカナダのハミルトン市に桜をお贈りし、婦人宣教師たちの働きを永く記憶し、感謝と友好の絆を永く記念していくことを目指したものです。

多くの卒業生や学院関係者によって目標金額五〇〇万円を超える五〇六万五千円という募金が集まり、この春、ミス・カートメルの出身地ソロルド市とハミルトン市に念願の桜が植えられました。両市は桜の植樹を記念するための式典を計画してくださり、その植樹式に学院代表者も招待を受けました。

六月一日、深町正信院長、水澤郁夫理事長の代理として西田哲也法人事務局長、発起人のひとりである松本幸恵前同窓会会長を団長とする、同窓生ら二三名が日本を旅立ちました。

ソロルド市

レイクヴュー墓地の道沿いに六〇本の桜が植えられ、その道はカートメルウェ

イと名づけられました。春の訪れが遅かった今年、まだ桜の花が少し残っていて私たちを迎えてくれました。一日に行われた植樹式ではミス・カートメルの一族であるキャサリン・カーさんがご尽力くださり、ドナルド・クロス氏、アンステイス・ブルムさんほか多くのカートメル先生のご親族の方々とご一緒に式典に参加することができました。



ソロルド市でのセレモニー

ハミルトン市

ダンダスのセンチニアルパークに三七本の桜がバスデーケーキのキャンドルのように円形に植えられ、カートメル先生をたたえるプレートも設置されました。一七日に行われた植樹式にはカナダ各地からイエードン、ラモント、ナカミチ、ブラウン元宣教師もかけつけてく

ださいました。カナダ在住四〇年でカナダ合同教会牧師であった有賀誠一牧師と友人であるマテ氏のフルート伴奏で英和関係者が歌った日本語と英語の校歌の調べは、爽やかな風に乗って、桜の木々の間を駆け抜けていきました。

この旅ではセンチナリー教会での聖日礼拝に出席し、また有賀牧師が懸命に探してくださった宣教師の先生方—ミス・カートメル、ミス・スクルトン、ミス・ハミルトン、ミス・マシューソン、ミス・サンダース、ミス・ケギー—のお墓にも詣でることができました。次号の楓園で詳しくご報告します。

このプロジェクトは趣旨に賛同し、さまざまな協力をしてくださった多くの方々の篤い思いと、桜の種類、植樹場所の選定、セレモニーのプログラムなどプロジェクトの意を汲みながらハミルト



ハミルトン市での植樹式



ハミルトン市での植樹式プログラム



ハミルトン市センチニアルパークに設置されたプレート

ン市との度重なる交渉を根気よく続けてくださった有賀牧師の存在があったからこそ実現しました。ハミルトン市とソロルド市で咲き誇るであろう桜に託して、これからも宣教師の先生方と、先生方を送りだしてくださった市民の方々、そして神様に感謝の気持ちを持ち続けていきたいと願っています。

生涯学習センター特別講座「村岡花子と児童文学」のご案内

生涯学習センターでは、村岡美枝さんをお招きして特別講座を開催します。お申込みをお待ちしております。

講座名：特別講座 「村岡花子と児童文学」

第一回：「村岡花子の生涯と『赤毛のアン』」

第二回：「花子の言葉の源泉と本に込めたメッセージ」

講師：村岡美枝（翻訳家、赤毛のアン記念館・村岡花子文庫主宰）

日時：第一回 二〇一四年十一月一日（金） 一四時～一五時三〇分

第二回 二〇一四年十一月二十一日（金） 一四時～一五時三〇分

会場：六本木キャンパス

本部・大学院棟二〇一教室

受講料：無料（事前応募制）

各回、定員一〇〇名

※定員を超えた場合は、抽選になります。

申込方法：次の事項をご記入のうえ往復ハガキでお申し込みください。

（一枚につき二名まで申込み可）

※返信の宛先を忘れずに、ご記入ください。

宛 先：〒二二六・〇〇一五 神奈川県横浜市緑区三保町三三

東洋英和女学院大学生涯学習センター

【記載事項】

① 受講希望日

② 氏名（二名でお申込みの場合は全員の氏名をご記入ください）

③ 郵便番号、住所

④ 電話番号（日中、連絡のとれる連絡先をご記入ください）

⑤ 学院との関係

締切日：二〇一四年一〇月一日（金） ※消印有効

返信ハガキは、十一月月上旬発送予定です。

講座の参加には、必ず返信ハガキをお持ちください。

《お問合せ》 東洋英和女学院大学生涯学習センター

電話：〇四五・九三二・九七〇七（月～金曜日 九～一七時）

E-mail: shougaictr@toyoeiwa.ac.jp



史料室レター No.14

カナダ合同教会のアーカイブズ訪問記

六月中旬、桜プロジェクトのカナダの旅に参加してきました。ここでは旅行が一段落ついてから、二日間訪問したカナダ合同教会のアーカイブズ（資料室）の報告をいたします。

移転を重ねた現在、合同教会のアーカイブズはトロントのダウンタウンのコミュニティ・センターの地下にあります。冷房の効いた閲覧室は一五席ほどで参考図書がずらりと横に並んでいます。さっそくすべての参考図書をデジタルカメラでパチパチ記録しました。何しろ今まで何人も英和の先生方が訪れてもなかなか全容がつかめず、ほしい資料を探し出すのが難しいと聞いていたからです。

書庫を案内してくださるといって喜んで中へ。空調や湿度管理がされ、非酸性紙の箱に資料の収められた移動書架のぎつり並んだ部屋など、見た目は日本のどこかの資料室の書庫とあまり変わりません。ミス・カートメルが持参されたマジック・ランタン（初期の幻灯機）に使われたタイプのガラス乾板も見せていただきました。

その後、史料室に欠けているばかりか、デジタル化の予定がないという一九二六年～一九六二年のWMS（カナダ婦人ミッション）の年次報告書から日本、東京のページを延々とデジタルカメラで撮影しました。全部で約八〇〇ページにわたります。

厳しい状況にあるカナダ合同教会ですが、歴史的な記録を保存して活用するためのアーカイブズ活動は地道に続けられており、意気込みは強いものを感じました。

カナダにあつて東洋英和の歴史を知る上で必要な資料を、今後は以前より効率的に収集できるのではないかと期待できる訪問となりました。



書庫の中と、スタッフのレアさん

東洋英和幼稚園

■入園式 4月9日(水)

■新入園母子歓迎会 4月25日(金)

■母と子の遠足 5月23日(金)

金沢八景の海の公園へ四・五歳児がお母さまとバスで出かけました。大潮ではありませんでした。ワカメやクラゲを見ついたり、浜辺でお弁当をいただいた後、貝拾いやリレーをして楽しく過ごしました。

■避難訓練 6月9日(月)

園内二階の台所で火災が発生と想定。全園児が各部屋から庭に避難し、訓練を行いました。麻布消防署の方に火事と地震の際に気をつけることを教えていただきました。



避難訓練の様子

大学付属 かえで幼稚園

■入園式 4月11日(金)

三歳児三八名、四歳児六名の新入園児とご家族の方を迎えました。

■イースター礼拝

4月21日(月)

四歳児・五歳児の子どもたちは礼拝を守った後、たまたご探しをしました。午後は卒業生を中心に一五〇名程の小中学生が集い礼拝を守りました。

■五歳児ワーク

5月17日(土)

今年度は四月、五月、九月、十一月と四回お父さまと共に働く時を持ちます。五月のワークではウッドデッキの土台作りをしました。板貼りは有志のお母さまがしてくださいでき上がったデッキは子どもたちの憩いの場となっています。



ウッドデッキでおしゃべり

小学部

■入学式 4月10日(木)

さわやかなお天気の中、八〇人の新入生とご家族の方々を全校児童が講堂でお迎えしました。

■運動会 5月24日(土)

赤組、白組に分かれ徒競走や綱引きなどの競技や、各学年によるダンスなどを行いました。みんな力を出し切り充実した一日となりました。

■鑑賞の日 6月20日(金)

観世流による、「能・安達原」を鑑賞しました。またあわせて、能体験のワークショップも行われました。当日は講堂の舞台が能舞台へと変身しました。

■夏期学校 7月

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」を主題聖句に軽井沢追分寮にて集団生活をしました。



夏期学校～碓氷峠・見晴台にて～

中高部

■中学部入学式 4月7日(月)

■高二修学旅行 5月12日(月)～16日(金)

長崎で平和について学び、柳川の北原白秋生家・記念館では、生徒たちが校歌を披露しました。

■中1オリエンテーション 5月14日(水)～16日(金)

中1全員が清里清泉寮で一緒に過ごし、「敬神奉仕」や聖書について考えました。清里清泉寮の自然の中も散策しました。

■高一カンファレンス 6月19日(木)・20日(金)

鈴木義嗣先生・港南希望教会よりテーマ「未来への羅針盤」の講演を聴き、ディスカッションを通し自分の将来を見つめました。



中1オリエンテーション

大学・大学院

【大学】

■入学式 4月2日(水)

■学長就任式 4月23日(水)

大学のチャペルで、東洋英和女学院大学第六代学長、池田明史新学長の就任式が行われました。

■オリエンテーション合宿 5月23日(金)・24日(土)

大学にて「主体的に生きる」をテーマにした学長講演のあと、千葉県富浦に移動し、デイスカッションやゼミ単位の活動で親睦を深め、有意義な二日間となりました。

【大学院】

■国際協力研究科特別公開講座 5月24日(土)

「東洋英和女学院 国際協力の歴史―花子の時代からの一世紀―を開催しました。



学長就任式



導かれて英和へ

東洋英和の高等部、大学人間科学部を卒業後、外資系海運会社に就職。海外駐在等を経て、英和に戻って仕事と両立しながら大学院国際協力研究科で学び、修士号を取得した市川さん。現在も海運業界の第一線で活躍する中、英和への、そして船の世界での仕事への導きを振り返り、今の思いを語ってくださいました。

望んではいなかった?! 英和への入学

小学校高学年から中学校をアメリカで過ごし、高校から日本に戻ってくるようになった私は「東洋英和」という学校を全く知りませんでした。入学させていただくことになりました。祖母と母は英和に入れるなんて本当に素晴らしいと喜んでくれましたが、当時の私は行きたい学校にいなかったとしぶしぶ東洋英和の門をくぐるようになりました。

望んだ道より素晴らしい 「導かれた道」

Tシャツにバックパックを背負って登校していた生活から一変、きちんと制服をきて、御挨拶をして、そして何より「礼拝」という新しい学校生活が始まりました。初日の登校は本当に緊張しましたが、やはり英和の雰囲気なのでしょう、クラスメイトと先生方の優しさで安心して久しぶりの日本の生活、そして英和の生活をスタートすることができました。大人になって改めて実感しているのは、建学の精神の重要性です。「敬神、奉仕が血となり肉となり、多くの人に根付いていて、そんな皆さんに守

られて高校生活を自由に、自分らしく過ごせたことに感謝しています。

三年はあっという間にすぎ今度は大学受験。やはり?!また英和しか合格しませんでした。この時、「私は何をやっても英和に帰ってくる運命になっている!」と実感しました。そんな風実に実感したころから、少しずつ変わっていく自分に気がつきました。それは、自分が正しいと思って目指していた道は必ずしもそうではなく、誤って通ってしまったと思つた道でも、その道でなければ見えない景色があるということ。そしてその景色のほうが想像していたよりも遥かに素晴らしいということです。英和という道を歩んでいなければ、祈り、感謝、喜び、敬神、奉仕、愛といった言葉を実感できなかったと思えます。神様はそういう景色を見せようと私に英和という道へ導き続けてくださったのだと感じています。



ダイヤモンドプリンセスにてキャプテンたちと

船と人道支援の仕事

世界と繋がっている仕事をしたいと考え、外資系の船会社から社会人生活をスタート。海外赴任もして充実した日々を過ごしていた中、二〇一〇年にハイチ大地震がありました。その時、救援物資が人々の手元に届かず救える命が失われている現実疑問を抱き、人道支援の道へ進むとうと会社をやめて外務省で働き始めました。同時に、将来は国連で働こうと考え、大学院を探していたところ、また英和が候補にあがって、今度は迷うことなく英和で学び、今年三月に無事修士課程を修了しました。外務省では人道支援国連機関と仕事をする機会に恵まれ、望んだ仕事に充実感を覚えました。またこれも正しいと思つた道は必ずしもそうではなかったりするもので、政府機関で自分の力は生かせないと二〇代後半の自分なりに結論付け、民間企業に戻りました。現在は、船舶総代理店という業種で、簡単に言えば、外国船舶が日本に寄港する時の諸手続きや運航上の問題解決を船社の代理で行う業務です。昨今外国クルーズ船の広告をご覧になれる方も多いと思いますが、それらクルーズ船は、乗員乗客合計六千人以上の人命を抱えており、安全で確実な運航は最重要事項です。そ

な客船の運航を陰ながら支える黒子のような仕事です。シッピングの世界は休みがないので、毎日遅くまで働いていますし、海外、国内そして船と共に航海という出張で多忙にしていますが、本当に充実した日々です。人道支援の夢は捨てていません。LIFEWORKとしていつも心の中にあります。船の仕事と直接関係がないように見えますが、輸送手段としての船の役割は大きいです。機会があればそういった仕事にまた巡りあえる、私が英和に導かれたように、また神様が光を指し示してくださいと信じています。

船は古来より月の光、コンパス、周りの船、港で待つ多くの人々に支えられ大海原を駆け巡ります。船の力だけで前進しているのではないのです。自分で道を切り拓いているように、実は神様や周りの人に支えられて今の自分があるということに安心をし、感謝して日々過ごせたなら幸せだと思います。

■いちかわ さえ／高校から大学院の10年を東洋英和で過ごす。2005年船会社マースク(株)入社、デンマーク本社駐在。2011年外務省入省、緊急人道支援課勤務。現在は、ウィルヘルムセン・シッピング・サービス・ジャパンにてクルーズマネージャー。2014年3月東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科で修士号取得。

聖書の言葉



イエスは言われた。
「行って、あなたも同じようにしなさい。」

ルカによる福音書一〇章三七節

毎年五月に、中学1年生の宿泊行事「中1オリエンテーション」が行われます。この行事のプログラムのひとつに「聖書に学ぶ」があります。内容は、神が私たちを愛してくださっていることを知り、愛されている者として何をすべきかを考えるというものです。その時に読まれるのが、「善いサマリア人」のたとえ話です。

追いはぎに襲われ、瀕死の重傷を負った旅人を助けたサマリア人のたとえ話を通して、主イエスは「隣人」とはだれか、何をすべきかを示されました。そして「行って、あなたも同じようにしなさい」と言われました。隣人を愛することは簡単なことではありません。ですが、主のおことばを心に留め、生徒だけでなく私たちが祈りつつ自分のできることから行いたいと思います。

中高部聖書科教諭
高橋貞二郎

おたよりコーナー



今回も、短期大学で村岡花子先生の授業を受けた同窓生からのおたよりをご紹介します。盛岡から届きました。同封して下さった岩手日報のコラムには、「花子とアン」を通じて東洋英和のことを覚えてくださっている方のことが書かれています。おたよりと合わせて、是非お読みください。

岩手から嬉しいお知らせ

みちのくは例年より少し早めに咲き出した桜がそろそろ散り始めたところでございます。

皆様にはいつもお世話頂き楽しい有意義な会報をお送り下さり、心から感謝申し上げます。

4月から始まりました「花子とアン」は楓の会報の特集「花子と白蓮」を合わせ読み毎朝胸をおどらせて見ております。短大保育科で村岡先生の授業を受けた私共にとっては特に感慨深い思いでいっぱいです。当地では英和出身者はほとんどなく、40年程前に数人で小さい集まりを持ったのが最後でした。

ところがテレビ小説が始まってから教会の友人や他の所でも話題に上るようになりとても嬉しいことが起こっております。

そして昨日こちらの地方紙岩手日報に同封のコピーの記事がのりましてのでお読み頂き度くお送り申し上げます。

この「風土計」の記事は、東洋英和について、まるでしぼりたての牛乳のような温かい印象を岩手の人達に伝えてくれたと、とても嬉しく思っております。

6月には年に1度のクラス会が東京で開かれますので大いに盛り上がることでしょう。その折には教文館の展示会にも伺いたいと思っております。

これからの学院のご発展を祈りつつ、小さな話題(大きな喜び)をお届けいたしました。

高橋(旧姓:佐々木) 孝子
短期大学 1956年卒



岩手日報 2014年5月1日付 朝刊

「TOYO Wa-Wa」へのお便りは……

〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院法人事務局 総務企画部総務課 まで
e-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でも、お待ちしております。

皆既月食

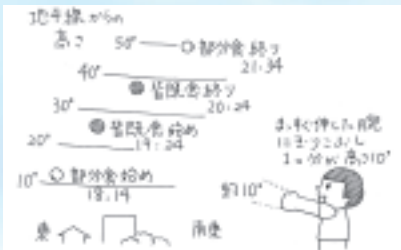


図1 10月8日皆既月食の見え方(東京地方)
今回の月食は東の低空から起こります。東から南東の空の広く見える場所を、あらかじめ探しておくとういでしょう

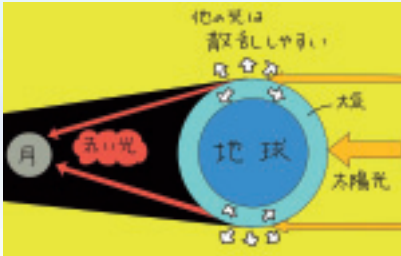


図2 地球の大気を通った光は屈折して、赤い光のみが月に届く



地球の影と皆既中の月
2011年12月10日21時45分～11日01時18分
撮影：北崎勝彦

来月、一〇月八日に皆既月食が全国で三年ぶりに見られます。今回は、夜の早い時間に起こりますので、ご家族で、この天文ショーを楽しみましょう。月食が起る仕組みは、「太陽に照らされた地球の影の中に月が入っていくため」と現在では分かっています。しかし、昔の人々は月が急にかけ始め、しばらくして血のような赤い色になるので、何か悪いことがあるのではないかと脅えていたそうです。

ところで：皆既月食中、どうして月は赤っぽくなるのでしょうか。

それは、太陽の光のうち、赤い光のみが月に届くからです。太陽の光はさまざまな色の光が混合したものです。皆既月食の時は、地球の大気の中を屈折して通過していくうちに、波長の長い赤い光だけが月まで届くように

なります。ですから皆既月食の時に月が赤くなるのは、地球に大気がある証拠とも言えます。大気の状態によっては、皆既中の月の色は変わってしまいます。例えば：一九八二年春にメキシコのエルチチョン火山が噴火しましたが、その年の年末に起きた月食は、皆既中、月がどこにあるのか分からなくなるくらい真っ暗になってしまいました。火山の噴出物で地球の大気が汚れ、太陽の光が地球の大気層をほとんど通過できなくなったためです。ですから逆に地球の上層大気が非常に澄んだ状況であれば、赤い波長よりもやや短めの光も月に届くようになり、皆既中の月は明るく、オレンジ色っぽく見えます。月食はその時に地球の大気の状態を知る手がかりにもなります。今回の月食はどんな色に見えるのでしょうか。

お知らせ

学院

東洋英和女学院創立130周年・東洋英和幼稚園創立100周年記念
楓の会講演会のご案内

日時：2014年11月15日(土) 14:00開演(13:30受付開始)
場所：中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂
講師：渡辺和子先生(学校法人ノートルダム清心学園理事長)
テーマ：「心の教育と親の役割」

【申込方法】下記事項を明記の上、メールにてお申し込みください。

●名前 ●学院との関係 ●電話番号 ●人数(原則4名まで)

kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp

電話・FAXでのお申し込みも受け付けます。

TEL 03-3583-3354 FAX 03-3584-5227

【申込期間】2014年10月1日(水)～10月31日(金)

※お申し込みは楓の会会員に限り、定員になり次第、締め切らせていただきます。



東洋英和幼稚園

東洋英和幼稚園100周年行事のご案内

東洋英和幼稚園の卒園生と保護者の方を対象に、100周年記念感謝礼拝とホームカミングデーを予定しております。事前の参加申し込みの必要はありません。詳細を幼稚園のホームページに掲載していきますので、どうぞご覧ください。たくさんの方で参加をお待ちしております。



2015年1月10日(土)

10時から11時30分 100周年記念感謝礼拝(於：小学部講堂)

12時から15時 ホームカミングデー(於：幼稚園)

東洋英和女学院 学院報 楓園 第75号

発行日：2014年9月17日

編集：広報委員会

発行：学校法人 東洋英和女学院 東京都港区六本木 5-14-40 Tel:03-3583-3325

メールアドレス：koho@toyoeiwa.ac.jp ホームページ：http://www.toyoeiwa.ac.jp

●●●●● 後援会より ●●●●●

2014年度後援会役員会・総会報告

7月4日(金)、後援会役員会・総会がANAインターコンチネンタルホテル東京で開催され、出席者数は学院側も含め約450名でした。

役員会では、①役員改選案の承認と新役員紹介 ②2013年度収支決算 ③2014年度収支予算案について審議が行われ、全て承認されました。

総会では、常任役員紹介、金子栄一後援会会長挨拶、深町正信院長挨拶の後、学院出席者紹介、役員会審議事項の報告などが行われ、その後学院各部代表者より現状報告がありました。また、懇親会では、なごやかな歓談の時を持ちました。



後援会常任役員のみなさん



総会の様子